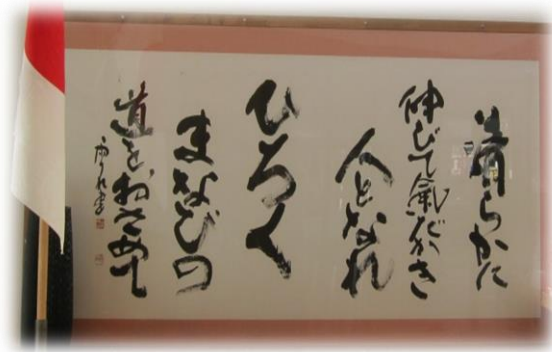


平成30年 1月メッセージ

明けましておめでとうございます。天候穏やかな元旦を迎えましたが、未曾有の大変化を国内・外に予感する年ともなりました。

保護者の皆様には、お揃いで、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年が明るく希望に満ちた年となるように、心から祈ると共に、本年もより良い保育を目指し、教職員一同精魂込めて臨みたく覚悟を新たにしていますので、どうぞよろしくお願い致します。



玄関の下駄箱の上

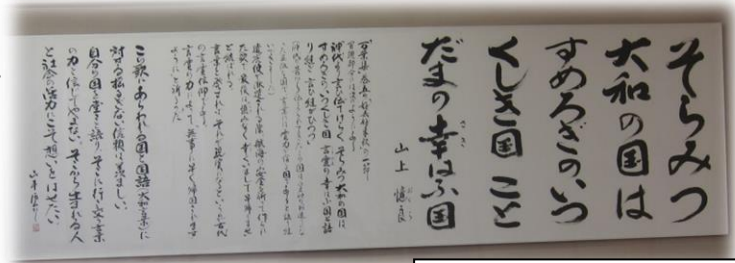
毎年のことですが、3月に卒園を控えている年長組に「ひらがなの稽古」に入っています。背筋をピンと伸ばし、口はキリッと真一文字に、話す人の目を見てしっかり聞こうとする態度や、すっかり幼児顔を脱した顔を眺めていると、この三年間の著しい成長の姿に感動すると共に、別れが近いことを思い、一抹の寂しさも覚えます。

万葉集 卷五 「好去好来歌」の一節 冒頭部分に、
「神代より言ひ伝えてけらく

そらみつ 大和の国は すめろぎの

いつくしき国 ことだまの幸はふ国 (山上憶良)

と語り継ぎ 言い継がひつつ」とあります。



いちご組の壁面に

(神代の昔から伝えられてきたこの国は 皇神のお造りになった立派な国で、言葉には靈力が宿る国であると語り継いできました)

「ひらがな」は、日本で、千年以上前に創りだされ、今なお使用している言語であり、世界的にも珍しく貴重な言葉です。園内の壁面には、「食は命なり」「念ずれば 花ひらく」「みんなちがってみんないい」等の「書」額を掛けています。子供達には、これらの言葉に込められた意味を伝えると共に、言葉が人(の心)を傷つける道具にもなることを教え、乱暴な行為で人の体を傷つけないように注意すると同様に、心を傷つける言葉を発しないようにしよう、そして良い言葉、聞いて嬉しくなる言葉を発して、言葉を聞いた人の心(魂)を喜ばせるだけでなく、言葉を発した本人の心(魂)も喜ばせようとも伝えています。

子供達には、本年も次のような短歌を紹介の予定です。

- 一、 いろはにほへと ちりぬるを わかよたれそ つねならむ ういのおくやま けふこえて
あさきゆめみし えひもせず (ん) 手習い歌・いろは歌
- 一、 今日よりぞ 幼心を 打ち捨てて 人となりにし 道を踏めかし 吉田松陰
- 一、 ^{しろがね}銀も ^{こがね}金も玉も 何せむに まされる宝 子にしかめやも 山上憶良
- 一、 ^な為せば成る ^な為さねば成らぬ 何事も 成らぬは人の ^{ようざん}為さぬなりけり 上杉鷹山
- 一、 ^{こち}東風ふかば にほひおこせよ 梅の花 あるじなしとて 春を忘るな 菅原道真
- 一、 ^{よも}四方の海 みなはらからと 思ふ世に など波風の 立ち騒ぐらむ 明治天皇

浅川幼稚園の先生達が、担任の目でみている日常の子供達の様子を前回に続いてご紹介致します。今回は、年長・にじ組担任の野上教諭と年少・くま組担任の倉元教諭です。

(一) 劇 “おむすびころりん”

野上美穂

どうしたら臼の中に餅があるように見えるか? (11月8日の話し合いより)

臼が出来上がり、どうすれば臼の中に餅があることが分かるかについて、皆で話し合った。「臼の横を切って、餅が見える様にしよう」「杵の先に丸いテープをくっつけて、臼の中に入っている丸い形の餅にくっつけたらいいんじゃない?」という意見が出たが、どれも可笑しいとなった。餅が伸びるところを表現したいが、いい案が出てこない。

そこで、まず材料を何にするかを考えた。「段ボール」「ティッシュ・ペーパー」「鯉のぼりの時に使った不織布」と候補が出た。1学期の鯉のぼり共同制作で用いた不織布が、柔らかくて破れないことを思い出し、不織布を使うことに決定。



次に表現方法を話し合った。臼の中にバネを入れる案が出た。ついた時にバネが縮むが、つく前に臼から餅が出ていておかしいと気づいた。すると、A子が何か思いついたようで、元気に手を挙げた。「臼の中の餅と杵に磁石をつけたら、くっつくんじゃない?」教師も思いつかなかった案に驚いた。「紙飛行機にクリップをつけて飛ばした時は、磁石にくっつかなかったよ」と1学期にした科学的取り組みのことを覚えていて、反対する子がいたが、A子は「クリップだからくっつかなかったんだよ。磁石同士だったら大丈夫」とみんなに説明した。不織布と杵にそれぞれ磁石を貼り、実際にやってみると「くっついた!」と子供達から歓声があがった。くっつき、それを外すことも出来るので、臼の中の餅と杵に磁石をくっつけることになった。

1学期の科学的取り組みを覚えていて、そのことが生かされているなど感じる話し合いだった。

(二) 劇 “三びきのこぶた”

倉元美咲

自分たちの役も決まり、練習に一生懸命な子供達。1番こぶた役になったA君、B君、Cちゃん、Dちゃん。女の子2人はとても声が大きく元気いっぱい演じていたが、男の子2人は恥ずかしさからか、なかなか大きな声が出ず、クラスの友達からも「もっと頑張って」と言われていた。

そんな日が続く中、女の子2人とA君が体調を崩し欠席してしまい、1番こぶたがB君1人になった日があった。私は1人ではさすがに練習も出来ないだろうと思い、他の役の子に手伝って貰おうと考え、まずB君に声を掛けた。「B君、今日3人お休みだけど大丈夫?」B君は「うん!大丈夫!!」と思ってもいなかった返事が返ってきた。「1人でやる?」と聞くと、「うん!出来る!」とやる気のある返事。

私はその返事を聞いて、B君にとって皆に頑張りを認めて貰えるチャンスかもしれない、と期待してその日の練習を開始した。すると、B君が恥ずかしがりながらも、自分なり



の大きな声で歌やダンス、台詞を言えた！練習後にEちゃんから「B君凄い！！1人なのに大きい声だった」Fちゃんからは「ちゃんと声聞こえたよ！！」と言われクラス皆から認められた。B君は嬉しそうに飛び跳ねて笑顔を見せた。

翌日、A君が登園。「昨日、僕1人でこぶたさん頑張ったんよ！」と得意げに話すB君。その日はA君B君2人で1番こぶたを演じた。A君もB君の頑張りを見て、大きな声が出るようになった。

「A君の声もしっかり聞こえたよ！2人なのに1番こぶたさんすごいね！」と皆に褒められ大きな自信となった。本番は4人で1番こぶた役を元気いっぱい演じてくれた。

自信を付けたA君、B君は自由遊びや、他の活動の時もよく発言するようになった。周りの友達から認められることで大きな自信になり、成長に繋がったのだと感じた。また、1番こぶた役がB君1人になってしまった時、ピンチではなく、チャンスだと思って取り組んだことが良かったと感じた。子供のやる気を大事に、一人ひとりが認められるような集団作りが大切であると感じた出来事であった。

子供達の成長の手伝いをさせて頂きながら、沢山の元気を子供達から貰うばかりか、保護者の皆様との沢山の貴重な出あい、ご支援、ご協力に感謝致します。(平成30年1月9日 福原 記す)